

学校全体の取り組み

| | |
|----------|---|
| 授業規律について | ① 指名されてから発言させる。 ② 「はい」は一回または黙って拳手をさせる。 ③ 指名されたら「はい・立つ・です」 ④ みんなに聞こえる声の大きさを発言させる。(声のもののさしの活用) ⑤ 発言している人の方を向いて聞かせる。 |
| 持ち物について | ① 4月に決めた物を持ってきているのかを探索、または点検する。そして、不要な物を持ってこさせない。 ② 机の横にたくさんの物をかけさせない。 ③ 道具をわすれたときには報告させる。 |
| 掲示について | ① 教務から配布された資料に準ずる。 |
| ノートについて | ① 日付を書かせる。 ② 線を引くときは定規を使わせる。 ③ ノートの書き方を指導する。 |

| 評語 | 説 | 明 |
|----|---------------------|---|
| A | 設定した目標を高度に達成した。 | |
| B | 設定した目標を概ね達成した。 | |
| C | 設定した目標を達成するには、もう一歩で | |
| D | 設定した目標はほとんど未達成である。 | |

| 教科名 | 児童の実態 | 指導方法の改善と工夫 | 評価 | |
|-----|---|--|-----|-----|
| | | | 2学期 | 3学期 |
| 国語 | 思考力・判断力・表現力 【読む】 ・基本的な言語事項を理解し、文の構成に関する事項を活用できるようにする。 【書く】 ・文章を書く力に個人差が大きい。文章の構成や段落の使い方など課題がある。 【言語】 ・漢字の習熟に個人差が大きい。 | 【読む】 ・主語述語の関係を考えながら、文章を捉えられるように、音読などで繰り返し指導する。 【書く】 ・作文や学習感想、日記等児童の実態に合わせて文章を丁寧に考えながら書く機会を作り、文章の構成や段落の使い方などを指導していく。 【言語】 ・漢字の学習を学校と家庭学習の両方で充実させる。学期の漢字はできる限り早く進め漢字の活用に力を入れる。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 【自分の考えの表現】 ・聞くことについては比較的できるが、自信をもって発言することができない児童が多い。 | 【自分の考えの表現】 ・司会や日直等、人前で話す機会を増やす。また、授業内でも自分の考えを言葉にする機会を増やす。 ・全体の前で発表する前に、班や隣同士で意見交換し、自信をもたせたうえで発表させるようにする。 | B | B |
| 社会 | 思考力・判断力・表現力 【資料の読み取り】 ・統計資料に対して苦手意識をもっている児童も多く、暗記しなければいけないと感じている児童もいる。地図や統計資料などを読み取る能力を高めていく必要がある。 【考えの表現】 ・人々の努力や工夫、我が国の特色などを関連付けながら表現できない児童が多い。 【地図帳の活用】 地理に関する知識が十分でなく、地図帳の活用も不十分である。 | 【資料の読み取り】 ・資料を全体で読み取り場面を設定する。また、資料を関連付けて、考えるために、板書を工夫したり、意見をつなげたりする。 【考えの表現】 ・資料から読み取れる事実、そこから考えられることまたその根拠をノートに書き、それを発表してお互いの考えを深め合う活動を充実させる。 【地図帳の活用】 ・地図帳を用意させ、新しい地名が出た際には、その場所を調べるようにする。また、運輸の働きなどの際も、地図帳を活用して学習をすすめていく。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 【意見をつなげた学習進行】 ・気付きや考えを関連付けながら、意見交流をすることができていない。 | 【意見をつなげた学習進行】 ・環境が整うまでの間は、教師がコーディネーターとなり意見をつないでいく。徐々に児童が主体的に意見をつないで学習を進んでいくようにしていく。 | B | B |
| 算数 | 思考力・判断力・表現力 【知識の定着】 ・計算の処理に時間がかかる児童が多い。また、正確さが課題となる児童も多く見られる。 【思考判断表現】 ・課題に対して、意味を深く理解したり、それらを説明したりする力に個人差が見られる。 ・小数の乗除計算や割合の学習などでは数直線の活用が有効であり、身に付けておく必要がある。 | 【知識の定着】 ・四則計算を応用するあまりのわり算の計算を年間通して徹底する。また数を柔軟にとらえ工夫して計算できるように随時指導していく。また、教え合いの活動を重視する。 【思考判断表現】 ・問題解決型の授業形態を工夫し、集団検討場面の時間確保と充実を図る。また単元の中で、問題解決型の学習と反復練習を中心とした学習を効率的、効果的に設定していく。 ・小数の乗法や除法の演算決定や、計算方法の意味理解の根拠として数直線を活用していく。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 【クラスによる言語活動の工夫】 ・練り上げの場面で、児童同士の意見の交流が活発ではない。 | 【クラスによる言語活動の工夫】 ・まずは集団検討の時間をしっかり確保する。同時に少なくとも自分の考えを1つはもって、集団検討に入れるように授業の進め方を工夫する。また、分類、妥当性の検討、発表・説明、検討と練り上げで行うことを明確にして指導していく。 | B | B |
| 理科 | 思考力・判断力・表現力 【実験観察の記録】 ・実験・観察が好きな児童は多くいるが、細かな記録がとれていない児童も多く見られる。 【結果・考察】 ・結果と考察の違いが分かっていない児童がいて、考察を書くことができていない。 【実生活に生かす】 ・学習したことを実生活と関連付けて考えることができていない。 | 【実験・観察の記録】 ・実験・観察するときには、どういった点に注目すべきかあらかじめ伝える。よく書けている児童の記述やスケッチを取り上げて紹介する。 【結果・考察】 ・結果と考察の違いを児童に伝えるときも、結果をもとに、考察を書けるように指導する。考察する時間を十分に確保し指導にあたる。 【実生活に生かす】 ・振り返りにおいて、学習内容と実生活とのつながりについて考えさせ、生活に生かそうとする態度を育成する。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 【話し合い】 ・理科に苦手意識をもっており、発表をする児童が少ない。 | 【話し合い】 ・グループ活動を生かして、少人数での意見の交流から始め、全体で共有していきけるように段階を踏む。 | B | B |
| 音楽 | 思考力・判断力・表現力 【音楽表現の創意工夫】 ・音色や強弱、フレーズ、歌詞の内容など、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり感じ取ったりしながら表現の工夫につなげている児童が増えてきているが十分ではない。 ・音楽づくりでは、リズムの組み合わせをグループで決めて楽しみながら活動するようが見られた。一方で、自分の意見を出せずにいる児童も見られた。 【音楽表現の技能】 ・互いの声を聴き合い、声をそろえて歌おうとする児童が増えてきた。一方で、音色を意識するあまり、声弱くなってしまっている児童がいる。 ・リコーダーの運指は身に付いているが、タンギングの定着には個人差がある。 | 【音楽表現の創意工夫】 ・発言内容やワークシートの記述から良いものを取り上げ紹介するなどして、意見交流の中から全体が高め合っていけるような授業の流れをつくる。 ・個人で考える時間とグループで考える時間を設定し、一人一人が課題意識をもって活動できるようにする。 【音楽表現の技能】 ・今後、合唱をする上で全体の声質、音色をそろえることが必須となってくる。互いの声を聴き合ってそろえて歌うことや、発声について継続して指導する。それと並行して、思い切った声を出す活動も取り入れて技能の定着を図る。 ・平易な曲、幅広いジャンルから選曲したり、児童同士の教え合いの中で楽しく学習したりすることで、技能の定着を図る。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 【伝え合う】 ・鑑賞の記述では、内容に個人差がある。 ・発表や意見を聞く際に、相手の方を見ることが徹底できていない。 | 【伝え合う】 ・課題を明確にして聴くようにする。音色の比較や、速さの変化などの分かりやすいものから取り上げて、全員が課題を共有できるようにする。発言の共有やペアやグループでの相談タイムなどを設定し、言語活動の充実を図りながら学習の深まりにつなげていく。 | C | B |

| | | | | | |
|----|--------------------|--|---|---|---|
| 図工 | 基礎的・基本的な知識・技能 | <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関心・意欲が高く積極的に制作に取り組んでいるが、一方で課題によっては表現したいことがなかなか見つけられずにいる児童もいる。 ○与えられた時間内に制作を終えることが難しい児童があるので、遅れてしまう児童への助言や個別指導が必要である。 <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分なりに色々な発想を広げて制作することができる。 ○発想力が豊かで、思い思いの発想を絵や形に表すことができる児童が多いが、クラスによっては、自分からつくりたいものを発想できない児童がいる。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な道具や材料の使い方を理解しており、自分なりに工夫できるが個別の課題や助言を必要とする児童がいるので適切な指導が必要である。 | <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関心・意欲が高い児童がよりよい表現を求めているように、また苦手な分野にも関心をもたせることができるように教材や授業計画を工夫する。 ○児童の制作に対する意欲を高めるために図工室の材料や用具の配置を工夫する。 ○制作が遅れがちな児童に関しては、進度を意識しながら製作することができるように例などを示して時間配分ができるようにする。 <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな発想ができるよう、発想の方向性が異なる題材を設定し、毎時間工夫の例やよい発想の児童の紹介などをして「もっとこうしてみたい」という思いが出てくるようにする。 ○制作の初めと途中で、発想したものを友達との交流で深めたり広げたりすることができるように、班やクラス全体での交流場면을計画的に設ける。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な道具の使い方について、毎時間使い方を確認し、準備や片づけにおいても安全面を配慮する。 ○配慮を必要とする児童には、制作段階を短く区切り次に制作することをわかりやすく示すなど工夫して指導する。 | B | B |
| | 言語活動 | <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他の作品のよさを感じ取ろうという意識はあるが、具体的によさを記述する活動は苦手な児童がいる。 | <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の終わりに振り返りカードを記入し、自他のよさに気付かせる。 ○作品の相互鑑賞の時間を大切に、1人1人の作品の良いところを具体的に褒め、自信に繋げていきたい。 ○鑑賞カードの項目や記述についてのポイントを具体的に提示し、思いを言葉で表現できるように手立てを工夫する。 | B | B |
| 体育 | 思考力・判断力・表現力 | <p>【運動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決する際に、運動の工夫をしている児童が少ない。 | <p>【運動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できる」と「わかる」の違いを理解させ、理論的に分かっていることをできるようにする工夫、あるいはできていることを理論的に説明できるようにする工夫の両面から技能ポイントを分析する活動を取り入れていく。 ・グループ学習を積極的に取り入れて、技能ポイントを分析させたり、アドバイスを送ったりさせることで運動の仕方の工夫を意識させる。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 | <p>【グループで高め合う授業作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間中は、個人での運動になりがちになり、友達同士の言語での交流があまり多くない。 | <p>【グループで高め合う授業作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能は言語表現によって伝わる度合いが様々に変わる。技能上達のためのコツを自分の言葉で言語化させる場面を多く設定する。 | B | B |

| | | | | | |
|-----------|--------------------|--|--|---|---|
| 道徳 | 思考力・判断力・表現力 | <p>【自分事として考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分事として考えることができないことがある。 <p>【道徳的実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを、実生活で生かすことができていない児童が多い。 | <p>【自分事として考えるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分の生活と重ねて考える場面を設定する。振り返りでは、自分の生活にどう生かすかという視点で振り返らせる。 <p>【道徳的実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1度の道徳の学習だけでなく、各教科の学習や子供の生活場面と連携させながら指導をすすめる。学習したことを生かす場面を多く設定する。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 | <p>【話し合いの活発化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言児童に偏りが見られる。 | <p>【話し合いの活発化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う価値のある内容の選択と、どの意見も認めていく学級の雰囲気づくりに努める。 | B | B |
| 外国語活動 | 思考力・判断力・表現力 | <p>【積極的なコミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語でのコミュニケーションに恥ずかしさを感じ、多くの友達とコミュニケーションをとることができない児童がいる。 | <p>【積極的なコミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声を出している児童を称賛し、他の児童の意欲も向上させる。 ・チャンツやグリーティングゲームなど、児童が気持ちのウォーミングアップをできる内容のものを導入に取り入れる。 | B | B |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 | <p>【英語での会話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語での会話ができるようにはなっているが、少ない質問で終わってしまう。 | <p>【英語での会話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力や文章表現を身に付けることで、徐々に会話のキャッチボールの回数を増やしていく。 | B | B |
| 総合的な学習の時間 | 思考力・判断力・表現力 | <p>【インターネットを用いた情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用して資料を集める活動を好む。資料を集めることが困難な児童もいる。 <p>【表現方法の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを表現する部分を苦手とする児童が多い。 | <p>【インターネットを用いた情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの簡単な使い方を指導するとともに、画像印刷の仕方などについても合わせて指導する。同時に本やインタビュー等インターネットに頼らない情報収集の利点についても指導していく。 <p>【表現方法の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の書き方等、よく書けている児童の記述やレイアウトを紹介 | C | C |
| | 言語能力の実態と言語活動の改善・工夫 | <p>【個人の活動が多い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題がそれぞれ異なることが多いため、個人の活動が多くなってしまふ。 | <p>【個人活動が多い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習のねらいでもある、情報の発信までを必ず行う。発信は、友達や担任、保護者、下級生など、様々な立場の人に発信できるようにする。 | B | B |